

野洲図書館 図書館の評価(評価項目)					令和2年度(令和元年度実績の評価)								
	分野	項目	目標		備考	取組み方法		実績		自己評価	課題・問題等	外部評価	外部評価の意見
1	貸出	貸出冊数（個人貸出、市民＋在勤者）	H30(2018)	539,900		①ブックトークやおはなし会の際のPR（「お友達を誘って図書館へ」） ブックスタート時に、本を渡すだけでなく図書館の利用のメリットをPR ②市内施設へのチラシの配布 ③本庁ブックポストの存在感を上げる ④「来館者と本との出会いのきっかけ作り」 ・特集コーナーを目立たせる ・中央特集コーナーの設置頻度を上げる（最低年6回） ・カウンターの「今日のおすすめ」 ・棚作り(棚内の表紙見せやPOPのような工夫) ⑤学校への館外奉仕の拡大もしくは学校図書館への支援の拡大 ⑥選書の質の向上	H30	524,094	C	■前年比24314冊減(−4.6%) ■野洲市民の守山市立図書館での貸出冊数は41697冊(H30→R1 23978冊増加)→ほぼ釣り合っている。 ■図書館の施設の魅力、棚(蔵書)の魅力を比較して、守山を使いたい市民層が一定存在する。 ■「図書館を使っていない野洲市民」に図書館を使ってもらう工夫(関連項目 6、7) ■「図書館を使っている野洲市民」がもっと借りたいと思う棚になっているかどうか(書架・蔵書の魅力)、借りたいときに借りられる棚になっているかどうか(十分な複本)、必要な冊数借りられる蔵書の厚み(同ジャンルの種数)があるかどうか ■図書館を利用するメリットの提示	C	・目標達成していないためC評価。 ・もはや昔のように貸出冊数が増えていくという時代ではない。今であれば、例えば市民一人当たりの貸し出しが年10冊を下回らないようにどうするかを考えてはどうか。 ・今のレベルを下回らないように毎年の本代の確保をしてほしい。 ・中主をはじめ、市域全体の利用、遠方からの利用をどうするか ・今後、コロナの影響が数字に出てくる。 ・開館した日数に対する貸し出しの冊数を見るようにするべき。 ・社会的な傾向を見て、目標設定自体をどうするか考えていく必要がある。達成度の数字記載や表現の工夫など ・アンケートに「新しい本が少ない」と書かれる。新しい本、人気の本が入っているとわかる工夫をしてほしい。	
			R1(2019)	539,900			R1	499,780	C				
			R2(2020)	539,900			R2						
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3						
		(1) ～ (11)	R4(2022)	550,000			R4						
2	貸出	中主分館の貸出冊数（個人貸出、市民＋在勤者）	H30(2018)	38,800		①購入図書の内容見直しおよび本館の資料との入替え(R2年度目標3000冊) ②“ない本でも借りられる”ことのPR ③中主利用の利便性をあげる仕組みづくりの検討(ホームページからの在架資料への予約など ※例.中主で借りたいが本館にしか在架資料のない本への予約)	H30	37,727	C	■前年比278冊減(−0.7%) ■中主でのおはなし会などで新規の利用を開拓できたと考えるが、その他の利用が伸びず減少した。 ■中主分館の蔵書の魅力を上げること、利便性を上げること、そして中主分館の認知度を上げることが必要	B	・お話し会など、以前よりは人が来るようになってきていると思う。ただ、中主地域全体としてはまだまだ中主分館に足を運ぶ機会が少ない。コミセンや自治会への配本する等を考えてほしい。 ・高齢化が進み、図書館へ来られなくなる人が多くなる。図書館の在り方を長期的に考える必要がある。 ・本館よりは減少の割合が少ない。 ・中主小、中主中へは館外貸し出しをしている。こういう機会を地域の人へ開くことも考えていければよい。 ・中主地域は協力的な地域性。コミセンなどでの本の管理のボランティアを募れないか。 ・図書館に関わりを持ちたいという人がいる(ボランティア、講座参加者)。こういう人に、図書館へ相談できるということのアピールをしてほしい。	
			R1(2019)	38,800			R1	37,449	C				
			R2(2020)	38,800			R2						
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3						
		(1) ～ (11)	R4(2022)	39,000			R4						
3	貸出	人口一人当たり貸出冊数(合計)	H30(2018)	12.7【9.6】	他市と比較するときは市外の利用も含めた合計を人口で割ることが一般的(個人貸出合計/人口)のため設定。広域貸出を減らすことが望ましいなら、市民のみの条件(【】内数値)に変更した方がよい。	①一般向け利用啓発のポスター(チラシ)作成 ②転入者向け簡易案内作成 ③市内の会社向けの利用案内作成	H30	12.1【9.2】	C	■前年比−1.2冊(【−0.5冊】) ■貸出冊数が減少する中、関連して人口一人当たり貸出冊数は減少する。他の項目と同じく、野洲市民の利用・貸出冊数を増やす(減少させない)取り組みが必要	C	・【 】内の数字をどう扱うか。この数字だと他自治体との比較がしにくくなる。 ・『日本の図書館』の統計では、人口区分5万人〜6万人の約80市の中で野洲市は貸出冊数がトップであり、全国的に見て低いわけではない。 ・目標設定時の数値は、どの図書館も達成しづらくなっている。	
			R1(2019)	12.7【9.6】			R1	10.9【8.7】	C				
			R2(2020)	12.7【9.6】			R2						
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3						
		(1) ～ (11) 、 (14)	R4(2022)	12.8【9.7】			R4						
4	貸出	市の児童一人当たり貸出冊数(市民のうち児童)	H30(2018)	12.7	市内の児童(0歳〜12歳で積算)の貸出	①児童向け行事のチラシ作成 ②転入者向け簡易案内作成 ③学校・園に出向いた際に図書館の利用をPR ④図書館HP内児童用ページの改訂 ⑤全小学校でのブックトーク・お話し会の実施	H30	12.8	A	■前年比−0.6冊 ■微減となった。 ■学校や園と連携しながらの取り組みは一定の成果が出ていると思われる。 ■普段の生活の中で、図書館に来て本を借りる子どもを増やしたい。図書館の立地は子どもだけでの来館は難しいため、親に連れてきてもらう必要がある。	B		
			R1(2019)	12.8			R1	12.2	C				
			R2(2020)	12.8			R2						
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3						
		(4) (5) (14)	R4(2022)	12.9			R4						
5	貸出	団体貸出冊数	H30(2018)	28,200		①団体貸出セット数の追加等 ②読書活動推進講座でのPR(学校・園対象)	H30	24,994	C	■前年比＋1679冊 ■学校や学童の利用があり、目標に達しないものの前年度より利用が増えた。 ■担当者の交代にかかわらず、「図書館で資料を借りる」ことを学校・学童の現場でより定着させていきたい。 ■上記以外の団体による活用のPRも必要。	B	・前年より増えている。 ・学校などとの連携をすすめてほしい。	
			R1(2019)	28,200			R1	26,673	C				
			R2(2020)	28,200			R2						
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3						
		(11)	R4(2022)	29,000			R4						

	分野	項目	目標		備考	取組み方法	実績		自己評価	課題・問題等	外部評価	外部評価の意見
6	登録	市民の登録率	H30(2018)	21.8%	市民の実利用者数/市の人口	①一般向け利用啓発のポスター(チラシ)作成 ②転入者向け簡易案内作成 ③市内の会社向けの利用案内作成 ④小学校・中学校への登録の働きかけの実施を検討	H30	20.4%	C	■令和元年度は6月にシステム更新を実施したため、年間の正確な実利用者数が出せない。 ■項目1、項目3などと共通して取り組みを進める必要がある	—	・システム更新のため、正確な数値が出ないとのこと。今年度は評価をしない。
			R1(2019)	21.8%			R1	—	—			
			R2(2020)	21.8%			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(1)(14)	R4(2022)	22%			R4					
7	登録	市民の新規登録者数	H30(2018)	1,180人		①転入者への働きかけ ②ブックスタートにおいて赤ちゃんから登録可能な点をPR ③小学校・中学校への登録の働きかけの実施を検討	H30	1,092人	C	■前年比 △97人 ■転入、出生以外の住民の利用の掘り起こしは必要。(項目6と共通)	B	・子どもの意識を変えるためにも、学校図書館の充実、学校司書の配置が必要。 ・出張貸出に行けない学校へは、別の形で何らかの働きかけをしてほしい。 ・withコロナの時代の図書館の在り方を考える必要がある。図書館に滞在できない。
			R1(2019)	1,180人			R1	995人	C			
			R2(2020)	1,190人			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(1)	R4(2022)	1,200人			R4					
8	問い合わせ	資料に関する問い合わせ件数、レファレンスに関する認知度・満足度	H30(2018)	件数5,180件 認知度50%		①日常の窓口業務の目配り ②フロアワーク ③アンケート(認知度・満足度を計る)	H30	件数6,137件 認知度65%	A	■件数:前年比+703件 ■認知度:前年比-2% ■満足度:前年比±0% ■件数が増加しているが、アンケートによる認知度には上昇は見られない。司書の助言を利用する一定数の利用者の、利用頻度が上昇しているということか。 ■より気軽に司書へ声を掛けられる環境の整備が必要	A	・読書相談の件数には本の場所を聞かれた件数も含まれており、館内表示の改善など考えるべき部分もある
			R1(2019)	件数5,250件 認知度52%			R1	件数6,840件 認知度63%	A			
			R2(2020)	件数5,300件 認知度60%			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(3)	R4(2022)	件数5,300件 認知度60%			R4					
9	蔵書	郷土資料、地域資料の受入冊数	H30(2018)	420冊/年	R1 児童滋賀 7冊 児童野洲 16冊 一般滋賀304冊 一般野洲168冊	①市役所各課作成資料の収集 ②市HP上の資料の受入等。 ※資料が出るかどうかという外的な要因によって受け入れ冊数変動するため、数値は働きかけの部分を強化する方向で検討	H30	576冊	A	■前年比-81冊 ■引き続き、市役所各課への提供依頼を行う	A	・郷土資料や地域資料のデジタル化は進めないのか。 ・国会図書館のように、紙資料をデジタルで見られるようにならないか。 ・市内の企業の広報誌やパンフレットなどの資料の収集もしてはどうか。
			R1(2019)	420冊/年			R1	495冊	A			
			R2(2020)	420冊/年			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(2)(13)	R4(2022)	420冊/年			R4					
10	集会行事	おはなし会参加人数	H30(2018)	1,070人	館内での職員実施のおはなし会の参加人数で積算(学校等から依頼があつて館内で実施したものは除く) R2目標はH30実績×実施月数/12か月	①チラシ等によるPRの工夫 ②養護学校などでのおはなし会の実施。来館の障害者団体等へのおはなし会の実施。 ※取り組みとは別に、開催日の天候が参加者の多寡にかなり影響を及ぼす	H30	1,216人	A	■前年比-432人 ■令和2年2月20日以降は新型コロナウイルス感染症対策で中止(同時期前年度:参加人数204人) ■ブックスタート時の働きかけ、学校や園へのPRも含め、参加者の拡大を図りたい	B	
			R1(2019)	1,100人			R1	784人	C			
			R2(2020)	900人			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(4)(5)	R4(2022)	1,150人			R4					
11	連携事業	関係機関、団体との連携事業	H30(2018)	18回/年	資料の特設や展示など。 R1 講演会2回、教室1回、資料展示14回、朗読会2回	①掲示板による呼びかけ等	H30	23回	A	■前年比-2回 ■掲示板上の呼びかけを行うものの、知らなかったといわれることもある。他課職員との接触があるときに積極的にPRするなど工夫が必要 ■行政機関以外との連携も視野に入れる必要がある	A	
			R1(2019)	18回/年			R1	21回	A			
			R2(2020)	19回/年			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(12)(13)	R4(2022)	20回/年			R4					

	分野	項目	目標		備考	取組み方法	実績		自己評価	課題・問題等	外部評価	外部評価の意見
12	障がい者サービス	郵送貸出、宅配の実利用者数	H30(2018)	7人	サービス対象の手帳保持・要介護者：総計1733名（H30調べ） 図書館利用カード登録者でサービス対象者数は不明	①HP等での広報 ②関係機関へのPR ③当事者、支援者向けのPRイベントを実施予定	H30	9人	A	■前年比2名増 ■広報やパンフレットを見て問い合わせるケースが何件もあった。 ■より広くサービスの情報が届くようにするための工夫が必要	A	・循環バスを物流に活用しバス停まで資料を運ぶなど、来館が難しい高齢者、免許返納者への対応を工夫できないか。
			R1(2019)	9人			R1	11人	A			
			R2(2020)	14人			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(8) (9)	R4(2022)	18人			R4					
13	接遇	職員の対応についての満足度	H30(2018)	85%		①接遇研修の実施 ②日常業務中での改善 ③職員の意識の向上	H30	96%	A	■前年比+1%（アンケートの結果） ■アンケートの自由記述だけでなく、日常のカウンター業務の中で発生する様々な事例を教材に、改善を進めていく必要がある ■組織内での研修だけでなく、外部講師による研修も必要かもしれない	A	・多様な利用者への対応等、外部講師による研修の必要性は向上する。幅広く対応をお願いしたい。
			R1(2019)	86%			R1	97%	A			
			R2(2020)	90%			R2					
		「提言」の該当箇所	R3(2021)				R3					
		(15)	R4(2022)	90%			R4					

- * 図書館協議会の「提言」の番号は「提言」 p 6の「野洲図書館のこれからのサービスのあり方」の項目番号。
- * 上記目標に入っていない項目は（16）施設・設備（17）図書館情報システム。どちらも毎年検討し、予算化されたものは実施している。

評価基準	A	目標を達成できた
	B	目標をある程度達成できた
	C	目標をあまり達成できなかった
	D	目標をまったく達成できなかった

- * 評価の期間は5年。目標設定は5年後を設定し、それに向けて1年ごとの目標値を定め、毎年評価を実施する。
- * 評価の方法：図書館で自己評価を実施。（毎年4月末まで）それを元に、図書館協議会に外部評価を実施してもらう。
- * 貸出冊数に関する目標数値は社会的要因によるところも大きいため、県内図書館の状況とも比較して評価を行う。（県内の公共図書館の平均数値との比較など）